



JMDP
日本骨髄バンク

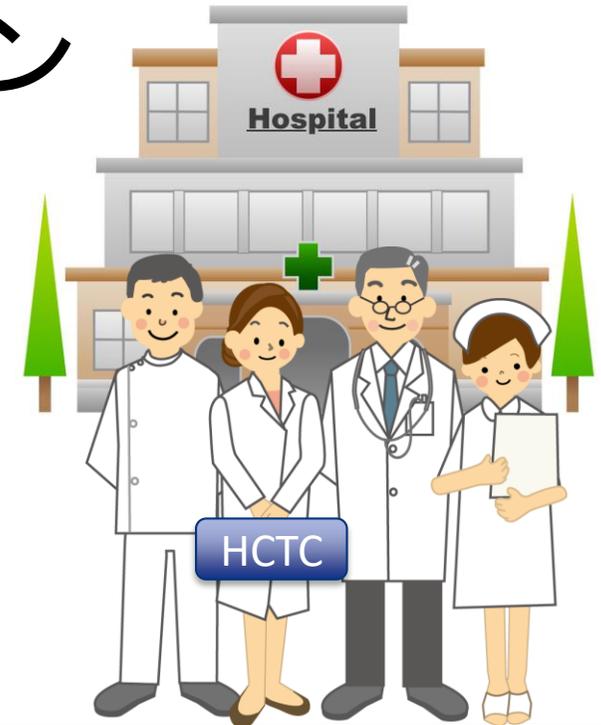
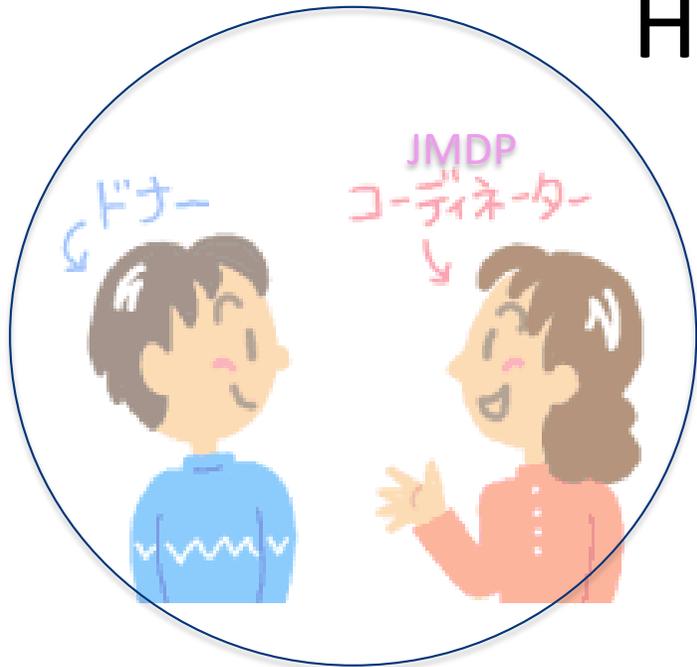


骨髄バンクコーディネーターと 造血細胞移植コーディネーターの役割

2017年4月 発行

公益財団法人 日本骨髄バンク ドナーコーディネート部
一般社団法人 造血細胞移植学会 HCTC委員会

骨髄バンクドナーコーディネートにおける HCTCのポジション



- ・骨髄バンクドナーを自施設に受け入れる場合、HCTCは後方支援的立ち位置に立って、ドナーやJMDP Co.が自施設のシステムにスムーズに溶け込めるようバンク側と施設側の橋渡しをする役目を担う。
- ・この2種のコーディネーターは造血細胞移植医療にとって不可欠な存在であり、両者が各々の役割を十分に理解し連携することが円滑かつ迅速なコーディネート、そして善意のあるドナーの質の高いケアに繋がることを両コーディネーターはしっかりと理解する必要がある。本資料は、両コーディネーターの採取施設における役割分担を整理し、お互いの役割についての理解を深めるために作成されたものである。

日本骨髄バンクの目的

- ・日本骨髄バンク(旧 骨髄移植推進財団)は、白血病等の血液難病に苦しむ人達を救済するため、善意による骨髄提供の仲介を行うために1991年12月18日に設立。
- ・ドナー登録者を集め、骨髄移植、末梢血幹細胞移植を必要とする患者と骨髄・末梢血幹細胞提供希望者(ドナー)との適切な橋渡し役を担い、迅速な患者救命を図ることを使命とする。
- ・公平性、公共性、広域性の三大原則のもと、迅速なコーディネートを目指す。

骨髄バンクコーディネーターの業務

- ・ドナーおよび関係者に対する連絡調整
- ・ドナーやご家族に対しての骨髄採取・末梢血幹細胞採取についての説明
- ・ドナーおよび家族の自発的意思に基づく骨髄提供・末梢血幹細胞提供の同意の確認
- ・骨髄提供・末梢血幹細胞提供後のドナー訪問やドナーの健康状態の把握など

(日本骨髄バンクホームページ参照)

造血細胞移植コーディネーター:HCTC (Hematopoietic Cell Transplant Coordinator)の定義

造血幹細胞移植がおこなわれる過程の中で、ドナーの善意を生かしつつ、移植医療が円滑におこなわれるように移植医療関係者や関連機関との調整をおこなうとともに、患者やドナー及びそれぞれの家族の支援をおこない、倫理性の担保、リスクマネージメントにも貢献する専門職

2012年より日本造血細胞移植学会認定 HCTC制度が開始

HCTCの業務 (詳細はHCTC委員会作成の「業務リスト」を参照)

- ・患者とその家族の支援
- ・ドナーとその家族の支援
 - 血縁ドナー
 - 非血縁ドナー(骨髄バンクとの協働)
- ・院内各部門との連絡調整
- ・院外各部門との連絡調整

(日本造血細胞移植学会ホームページ より)

骨髄バンクコーディネーターとHCTCとの違い

	骨髄バンクコーディネーター	HCTC(造血細胞移植コーディネーター)
所属	公益財団法人 日本骨髄バンク	移植施設
研修/認定	公益財団法人 日本骨髄バンクが実施する骨髄バンクコーディネーター養成研修会(実地研修を含む)を受講し、認定委嘱審査委員会が審査し、適性を認めた者に対し、理事長が認定・委嘱する	<ul style="list-style-type: none"> ・一般社団法人 日本造血細胞移植学会 HCTC委員会が主催する所定のHCTC講習会の修了証を有すること ・HCTCとしての実務経験年数を2年以上有すること ・HCTCとしてのコーディネート件数が、患者事例15件以上、ドナー事例15件以上(内、血縁ドナー事例5件以上)の経験を有すること <p>なお、小児移植例のみのコーディネートを行っている場合には、患者事例8件以上・ドナー事例8件以上(内、同胞ドナー事例3件以上)の経験を有すること</p> <p>日本造血細胞移植学会員であり、学会員歴2年以上であること</p> <p>上記を満たした上で、患者・血縁ドナー各2事例ずつの報告書を含む「認定申請書類」を提出、書類審査・筆記試験・口頭試験を経て、HCTC認定審査委員会およびHCTC委員会において審査を行い、学会理事会に報告。 学会理事会の承認を経て、学会が認定する。</p>
主な活動	非血縁ドナー およびその家族のみの対応	患者コーディネート 血縁ドナーコーディネート 非血縁ドナーへの関わり
特徴	患者情報は知らされずに ドナーコーディネートを行う	患者情報も知り得た上で移植全体のコーディネートを行う

骨髄バンクコーディネーター(JMDP Co.)とHCTCとの役割分担

JMDP Co.

- ・確認検査・最終同意面談の日程調整。
- ・調整医師在籍施設にて面談実施。

- ・採取日、採取前健診日、自己血採血日等の調整。
- ・採取前健診前日に体調確認。
- ・採取前健診(診察・諸検査)に同行。
スムーズな進行とドナーの不安の除去等に努める。
入院オリエンテーション実施。(必要時)

- ・自己血採血前日に体調確認。
- ・自己血採血は原則同行なし。
ドナーだけで来院。
- ・自己血採血後、ドナーに実施確認。

- ・採取8~10日前頃(患者前処置開始前を目安)、体調確認。
- ・入院前日、G-CSF初回投与前日に体調確認。
- ・BMの場合は「入院日、採取当日、退院時」
PBの場合は「G-CSF投与1日目、採取1回目、
採取翌日(退院または採取2回目)」にドナー
同行(訪問)。
- ・採取時・退院時等にアンケート実施。

退院後、原則週1回、電話でフォローアップ

- ・採取後健診は原則同行なし。
ドナーだけで来院。
- ・採取後健診後、ドナーに実施確認。

ドナーの連絡・相談窓口はJMDP Co.

コーディネート行程

確認検査

最終同意面談

採取前健診

自己血採血

G-CSF

入院

末梢血幹細胞採取

骨髄採取

退院

採取後健診

HCTC

- ・調整医師に代わって日程調整、面談
室の準備を行うこともある。
- ・依頼があれば最終同意面談の立会人となる
ことも可能。義務ではない。

この時点から介入

- JMDP Co.及びバンクドナーに挨拶。
原則、諸検査に同行は不要。
健診前後、JMDP Co.と情報共有を図ることが望ましい。

自己血採血前後の安全確認。

- 安心して入院生活を送れるよう見守る。
入院中の様子、問題など、必要に応じJMDP Co.に情
報を提供する。

- ・健診に立ち会う(必須ではない)
- ・採取施設の立場より、担当医とともに
コーディネート終了のお礼を述べる。

各行程での対応・留意点

JMDP Co.の対応・留意点

HCTCの対応・留意点

確認検査

確認検査～最終同意面談では、ドナーとドナー家族の自由意思による提供意思決定のためのコーディネートを行う。
各行程で、ドナーの状況を把握するように努め、得た情報は報告書にまとめ地区事務局へ報告する。

1. 確認検査

- ①ドナー候補に電話し、提供意思や家族同意、スケジュール面などを詳細に確認。
- ②確認検査の日程調整。
- ③確認検査前日にドナーと調整医師に前日確認。
- ④確認検査当日は、まず、面談でJMDP Co.より「ハンドブック」に沿って説明。

その後、調整医師が問診・診察・採血を行う。
事後は、報告書を作成し、地区事務局へ提出

* 面談場所は調整医師が確保

2. 最終同意面談

- ①ドナー候補に電話し、提供意思や家族同意、スケジュール面(入院不都合時期など)を再確認。
- ②最終同意面談の日程調整。
- ③最終同意面談前日にドナーと調整医師に前日確認。
- ③最終同意面談当日は、調整医師とともに「ハンドブック」に沿って説明。

その後、ドナー本人の提供意思確認とドナー家族の同意確認を行う。

最終同意面談には第三者の立会人も同席する。
事後は報告書を作成し、地区事務局へ提出。

* 面談場所は調整医師が確保

- 原則、HCTCはドナーへの挨拶等は不要。
(理由:初めて来院し、JMDP Co.から説明を受ける段階である。あくまでドナー候補であり、十分な意思決定には至っていないこともある。また、この段階で新たな健康面の情報が得られ、コーディネート終了の可能性もあるため)
- 調整医師の依頼に基づき、面談日の調整、面談場所の確保等のサポートをすることは可能。
- ドナー適格性判定の書類をHCTCが記載することは不要。あくまで、この書類は調整医師が記載し、署名するものとする。

最終同意面談

- 原則、HCTCはドナーへの挨拶等は不要。
(理由:この段階は、家族同席のもとドナーの最終意思決定の重要な面談となるため)
- 調整医師の依頼に基づき、面談日の調整、面談場所の確保等のサポートをすることは可能。
- バンク地区事務局からの依頼に基づき、立会人を務めることは可能。その際は、バンクから送付される依頼状に基づき、立会人の意味をよく理解したうえで、HCTCとしてではなく第三者の立場で立ち会うことが大切である。

JMDP Co.の対応/留意点

採取前健診

採取施設および採取日程調整／採取前健診日程調整

- ・地区事務局が患者移植希望時期に応じた採取施設と日程を提示、JMDP Co.がドナーの都合を確認し、採取施設と採取日程が決定する。
- ・採取前健診日程は、JMDP Co.が採取担当医（HCTC在籍施設はHCTC含む）と調整。
自己血採血日を同時に調整する施設もある。

・採取前健診は、各採取施設により手順や注意点、所要時間等が異なるため、施設毎の情報を可能な範囲で事前確認し、採取前健診がスムーズに進行できるよう配慮する。

HCTCの対応/留意点

原則、この段階から介入

施設のHCTCとして骨髓バンクドナーの安全、安心を軸にJMDP Co.と協働して対応する。

（JMDP Co.同行あり）

- ・HCTCとしてドナーへの挨拶をする。

立場の説明、提供に向けて、どの行程で関わらせていただくかを伝える。

・各種検査の同行は不要で、JMDP Co.が対応する。
他科受診等が必要な際には、状況に応じ、HCTCは施設内のコーディネーターとして、JMDP Co.と協働してドナー対応を行う。

（施設によっては、セキュリティの関係や手続き上の問題でその施設のスタッフが同行しないといけない場合がある。）

- ・健診前後、JMDP Co.と情報の共有を図ることが望ましい。

自己血採血

自己血採血は、原則JMDP Co.が同行しないため、事前に手順などをよく確認しドナーに説明しておく。

自己血採血終了後、実施確認。

（原則、JMDP Co.同行なし）

施設状況に応じ、可能であれば、HCTCはドナーが安全かつ安心して採血が実施できるよう対応する。必須ではない。

※G-CSF投与初日は同行。2日目以降は同行しない。

JMDP Co.の対応/留意点

HCTCの対応/留意点

入院

採取当日

退院

採取後健診

(原則、JMDP Co.同行あり)
状況に応じ、入院後挨拶に伺い、不安等がないか確認する。

(採取後、JMDP Co訪問あり)
施設の状況により対応。
採取後は、ねぎらい、感謝の気持ちを伝える。

(原則、JMDP Co.同行あり)
施設の状況により対応。

(原則、JMDP Co.同行なし)
ドナーが一人で来院。対応可能であれば、ドナーが安心して採取行程を終了できるよう対応する。最後に担当医とともに採取施設の立場でお礼を述べる。再検査となった場合は、ドナーにJMDP Coとの日程調整が必要となることを伝える。

入院受付後、病室入室まで同行。
(入院時同行不可能な場合は、入院当日中に訪問)

採取当日は、採取後(概ね夕方頃)訪問し、ドナーの状況を確認。アンケートも実施。

退院時間の少し前を見計らい訪問。
ドナーの状況を確認。アンケートも実施(BMの場合)。
多くの場合、病院玄関までドナーに同行し見送る。
*PBの場合は採取2日目に訪問。(退院日とは限らない)

退院後、原則として週1回、電話でフォローアップを行う。
(PBの場合は4週目まで)

- ・体調に関するアンケートを実施。
- ・体調面で問題があった場合は、すぐに地区事務局および採取施設へ報告。

採取後健診後はドナーへ電話で実施確認。健診結果を含め健康上問題がなければ(ドナーの意向を伺ったうえで)コーディネート終了。健康上問題があれば、採取後健診後もフォローアップを継続。

HCTCの対応/留意点

ドナー緊急受診時の対応



原則としてJMDP Co.の同行が望ましいと思われるが、もし、同行がない場合は、ドナーが安心して受診を終えられるよう、採取施設の担当医の指示に基づいて対応する。

地区事務局及びJMDP Co.との連絡など

連絡方法について

非血縁者間コーディネーターに関わることになった場合、施設側(HCTC)が希望すれば、地区事務局に「採取担当医にメール連絡をする際、HCTCにもCC(Carbon copy)をしてほしい」と依頼をすることは可能。

HCTCがメールで連絡、返信する場合は、必ず、JMDP Co.のみに返信するのではなく、地区事務局にもCCをすること。

バンクの面談の見学について

HCTCが自身の学びの為、確認検査、最終同意面談を見学することは可能。

その際には、当該施設の担当調整医師に確認の上、事前に骨髓バンク地区事務局に面談見学希望の旨を申し出る。骨髓バンク地区事務局ではドナーに見学者の同席の可否を確認。ドナーの了解が得られた場合のみ面談の見学ができる。

ドナーリンパ球輸注(DLI)における骨髓バンクコーディネーターとHCTCとの役割分担

JMDP Co.

DLI コーディネート行程

HCTC

患者側より骨髓バンクに
DLI申請

医療委員会にて適応審査

コーディネート開始
提供ドナーの意思確認

採血施設・採血日決定

事前検査

DLI 採血

・事務局・JMDP Co.
提供ドナーの意思確認

・採血施設・事前検査日・採血日の調整
(採取施設と同一施設とは限らない)

・事前検査に同行
DLI採血に関する説明書に沿って担当
医師が説明後、DLI採血に関する同意
書を作成。
・再検査必要時の対応

・DLI採血に同行
・帰宅後、電話フォローアップ実施
・問題がなければフォロー終了

・担当医指示のもと、検査が円滑に実施
できるようサポートする。
・対応する際には、JMDP Co.及びバンク
ドナーに挨拶
・必要に応じJMDP Co.と情報共有を図る
ことが望ましい
(骨髓・末梢血採取時に対応したドナー
とは限らない)

・DLI採血日→担当医の指示のもと対応